



医療法人 円会  
瀬口脳神経外科病院

# まどか

第6号

## 病院理念

- ・ 私たちは、地域の皆様から信頼される病院づくりに努めています
- ・ 私たちは、患者様のための心のこもった医療サービスを提供します
- ・ 私たちは、常に脳・脊髄疾患の専門病院として高度且つ最新の医療を提供します

天龍村 うぐす梅園 竜峡小梅 撮影：中島一男



### 主な記事

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| ● 瀬口達也院長のご挨拶…………… 2 | ● 円会訪問看護 S T 紹介…………… 5 |
| ● 脊髄の手術について…………… 3  | ● 神経内科 Dr 紹介…………… 6    |
| ● 医事科の紹介…………… 4     | ● 外来診察案内…………… 6        |
| ● 薬のはなし…………… 5      | ● 脳ドック案内…………… 6        |

## 瀬口脳神経外科病院

院長 瀬口達也



平成26年度を迎え、ご挨拶を申し上げます。

昨年度、疾患別死亡率で長年第3位であった脳卒中が肺疾患（肺炎）に変わり、第4位となりました。死亡率という観点ではそれは喜ばしいことですが、疾患率、言い換えれば病気にかかる率は依然として脳卒中は増加傾向に有り、注目する点は、要介護の数、特に介護が手厚くなる要介護4、5が圧倒的に脳卒中患者に多い事が挙げられます。

これは、脳卒中患者は以前と比べ、医療が進んだ結果、救命はでき死亡する人は少なくなりましたが、障害を持って、介護を受けながら生活をする人が増えているということです。健康寿命と言う観点から考えれば、この現実には憂慮すべき事で、救命だけではなく、いかに障害を残さず脳卒中を治療するかが重要です。昨年、長野県はストップザ脳卒中と題して、県民に脳卒中を理解してもらうキャンペーンを行いました。我々も脳卒中治療の一端を担う施設として、飯田下伊那地域の住民、医師に対して、活動を行ってきました。活動の中で強調したことが2点あります。一つは予防です。

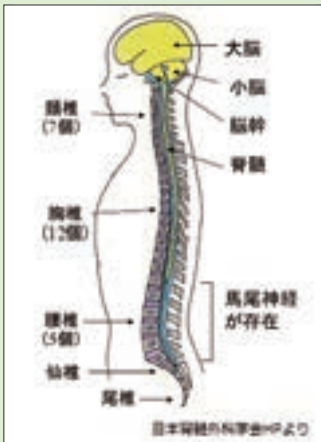
脳卒中は突然発症します。前触れのないことが多く、まず今の自分に脳卒中になる危険因子があるかどうかと言う状態を知ることから始めなければなりません。そのためには検診を受ける事が重要で、脳ドックを勧めて参りました。

もう一点は、不幸にも脳卒中を発症してしまった場合、とにかく発症から早期の診断、治療が重要で、治療が早ければ早いほど、障害を最小限に抑えることが可能となり、家庭復帰のみならず、社会復帰も可能にする事ができるため、脳卒中を疑った場合、対応可能な医療機関への受診・搬送をしてくださいということです。他にもいろいろありますが、この2点に関しては特に理解していただきたいと思います。

脳卒中の治療は日々進化しております。

我々は脳卒中の専門治療チームとして、常に最新、最良の急性期医療を提供する事のみならず、予防、介護と脳卒中全般にわたる患者さんのニーズに応えられるよう、今年度も努力、研鑽していく所存であります。

# 脊髄の手術について



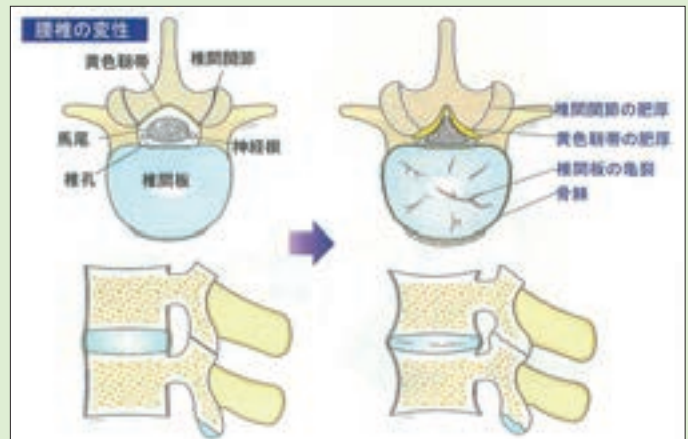
脊椎は人間の体幹及び頭部を支える役割とその内腔に存在する脊髄という神経組織を守るという2つの大きな役割があります。脊髄は脳と末梢の神経の間を神経繊維で伝達しており、上肢(腕、手)、下肢(足)、内臓の運動および知覚神経を支配しています。脊髄も脳と同様に神経細胞からなり外傷、変性、腫瘍などにより一度傷害されると回復がとても困難になります。脊髄が完全に損傷された場合には四肢の障害や尿・便のコントロールが不能となることがあり、したがって傷害を防ぐこと、進行を防ぐことが治療の主眼となります。



脳神経外科 医長 宮岡嘉就

脊髄の代表的疾患である①脊椎症は年齢による脊椎の変形が原因となります。また②ヘルニアは椎間板というクッション組織がその周囲の固い膜が破れてはみ出てくることにより起こります。これらは外傷や無理な体位などが原因となることがあり、どちらも脊髄の占める空間が狭くなり、また脊髄神経の出る穴が狭くなって症状が出現します。腕や下肢の痛み、しびれ、運動障害など様々な障害が複合されているいろいろな進行度で出現します。脊椎脊髄疾患の多くは保存的治療で軽快しますが、症状が進行する場合や長期間症状が残存する場合は、手術による治療が功を奏するものも少なくありません。

欧米において脊椎脊髄外科は、古くから脳神経外科手術の半数以上を占める最も主要な領域でした。一方、本国では長らく「背骨は整形外科」との一般認識が根強く、脳神経外科の中では少数領域となっていました。近年、日本でも脊椎脊髄外科を専門とする脳神経外科医が増えてきており、徐々にその専門は整形外科と脳神経外科の両科になりつつあります。脊椎脊髄手術の多くは神経圧迫病変に対する除圧が基本となり、両科の最大の違いは手術の際に脳神経外科では手術用顕微鏡を用いて行う点にあります。



手術は除圧(圧迫を除くこと)のみでなく、必要に応じて固定(不安定になった部位を安定する)を行うのが従来から術式とされています。現在はチタン製のプレートを使って強固に固定したりすることが可能となってきたり、また自分の骨以外に合成の骨成分であるハイドロキシアパタイトを用いることも頻繁になってきています。当院でも患者様の症状にあった最適の手術方法を選択できるよう日々努力を行っております。

手術は除圧(圧迫を除くこと)のみでなく、必要に応じて固定(不安定になった部位を安定する)を行うのが従来から術式とされています。現在はチタン製のプレートを使って強固に固定したりすることが可能となってきたり、また自分の骨以外に合成の骨成分であるハイドロキシアパタイトを用いることも頻繁になってきています。当院でも患者様の症状にあった最適の手術方法を選択できるよう日々努力を行っております。

手術は除圧(圧迫を除くこと)のみでなく、必要に応じて固定(不安定になった部位を安定する)を行うのが従来から術式とされています。現在はチタン製のプレートを使って強固に固定したりすることが可能となってきたり、また自分の骨以外に合成の骨成分であるハイドロキシアパタイトを用いることも頻繁になってきています。当院でも患者様の症状にあった最適の手術方法を選択できるよう日々努力を行っております。



# 医事科の紹介

医事科は現在、13名＋診療録管理士（1名）、医師事務作業補助者（1名）の計15名で様々な仕事を分担しています。

主に受付窓口対応、診療費の請求、カルテの作成、診察予約、クランク業務など多岐にわたります。

私たちは、患者様に安心して診療を受けていただけるよう、常に患者様の立場に立ち、笑顔の対応を心がけております。

正面玄関を入ってすぐ左手にあるのが、受付カウンターです。全ての御来院の方は一度受付カウンターへお越し下さい。

ここでは初診・再診で来院された患者様の受付や会計を行います。また、入院中の患者様のご案内等や診断書などの書類についても受付にてお預かりしていますので、御入用の際はご相談下さい。

外来受診時には保険証をお預かりし、迅速にカルテを作成し、すみやかに診察を行えるよう努力しております。それでも、混雑している場合は、予約であってもお待たせする時間が長くなる時もあります。待ち時間の間に具合が悪くなったり、ご都合が悪くなってしまった場合などはお気軽に受付窓口へお申し出下さい。



入院病棟では、主にクランク業務、請求書の作成などを行っております。入院費のお支払い等のご相談も承っておりますので、お気軽にご相談下さい。

日々高度になっていく医療や、2年に1度改定される診療報酬制度に対し、日々勉強しながらより正確かつ迅速な医事業務を、患者様やご家族の皆様にご提供できるよう医療事務のプロとして日々邁進していきたいと思っております。



## 薬のはなし「薬って何？」

薬をお渡しする時に、よく聞かれる事があります。

「この薬は、副作用がありますか？」。皆さん今までに薬を飲んだ事があると思います。



薬って何でしょう？

「薬」→「クスリ」反対から読むと、「リ・ス・ク」と言う様に薬にはリスク(危険)があります。リスクがあるのに何で薬を飲むのでしょうか。薬は症状がなければ、飲まないと思います。風邪になって風邪薬を



薬剤師 寺沢裕二

飲む事はあっても、日頃から風邪薬を飲む事はしないでしょ。飲む必要が無いからです。

「副作用」とは、期待する本来の効果以外の作用とされています。例えば、「血圧が高いから、血圧を下げる薬を飲みましょう。」と血圧の薬を出された場合、血圧を下げる事は効能となりますが、効き過ぎて血圧が下がり過ぎる事は、副作用となります。作用がある以上副作用が無い薬は無いです。作用から想像出来る副作用と、作用と無関係に起きる副作用(原因不明)があり、個人差がありますが、起きる確率は数%程度で必ず起きるわけではありません。

医師は、薬を処方する時にリスク(危険)&ベネフィット(利益)を考えてベネフィットが上回る様にお出ししています。薬剤師もそれぞれの処方が、適切であるか監査してから調剤を行う事が薬剤師法にて定められています。

病気を治療する為に、薬は必需品です。リスクもありますが、必要以上に警戒する必要がありませんので、安心して服用して下さい。

薬を飲む時に、効能と副作用を知っている事は大切です。これからは、「この薬は、どんな副作用が起きますか？」と聞いてみてはどうでしょうか。

## 円会訪問看護ステーションの紹介

円会訪問看護ステーションは3名の看護師が利用者様の自宅を訪問して療養のお世話や必要な処置をおこなっています。

主治医の指示や連携により病気や障害があっても住み慣れた自宅で安心して生活が送れる様、多職種と協力しながら在宅療養生活を支援しています。在宅療養生活に不安な方、困っている



事がある方は担当のケアマネージャーに相談してみてください。ご本人だけでなく生活を支えているご家族のサポートもしています。安心して在宅での療養生活がおくれる様にお手伝いできればと思っています。

事業所は老人保健施設円会センテナリアン新館に構えています。気軽にお立ち寄りください。



# 神経内科 Dr 紹介



信州大学医学部難病診療センター 教授  
中村 昭則 医師

平成21年10月から神経内科医師として毎週木曜日の外来を担当しています。神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋を診療の対象臓器とする内科の一分野です。対象疾患には、脳梗塞、てんかん、認知症をはじめ、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー、ギランバレー症候群などの神経難病が含まれています。また、高血圧、糖尿病、内分泌疾患、リウマチ・膠原病の診断・治療にも対応しています。

神経内科を受診される方の訴えの多くは、頭痛、めまい、手足のしびれ・運動麻痺、振え、けいれん、意識障害、物忘れなどですが、脳神経外科あるいは整形外科をはじめに受診されることが多く、原因が分からないため神経内科に紹介されることが少なくありません。この理由に神経内科の認知度が低いことがあります。皆様には、前述のような症状があれば、神経内科を受診してもらうことで、診断～治療までを早く行える場合もある、ということを知っていただければ本望です。

## 外来診療時間

受付時間	月曜日～金曜日	午前 8 時 30 分から午前 11 時 30 分まで
	土曜日	午前 8 時 30 分から午前 11 時まで

## 休診日

日曜日、祝祭日、第 2・4 土曜日、第 1・3・5 土曜日午後、年末年始、盆休

## 担当医

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	瀬口達也 院長	宮岡嘉就	瀬口達也 院長	中村昭則 (信大神経内科 教授)	瀬口達也 院長	銭坂英生 又は 他 医師
	木内貴史 10時から		木内貴史 10時から	黒岩正文 (信州大学) 10時から	宮岡嘉就 10時から	

担当医は変更になることがありますので、電話にてお問い合わせください

**但し急患は 365 日 24 時間受け付けいたします**  
**☎ 0265-24-6655**

## 脳ドック ～随時予約受付中～



- ①一般コース：月～金曜日の午後に検査。後日、結果報告を実施。
- ②日帰りコース：奇数週の土曜日の午前に検査と結果報告を実施。

\*お申し込み、お問い合わせは下記ドック室へお願いいたします。  
ドック室直通TEL：0265-24-7667 FAX：0265-24-6776  
脳ドックメール：noudokku@seguchi-nouge.or.jp  
ホームページ：http://www.seguchi-nouge.or.jp/

## 病院だより 第6号

発行 ■ 医療法人円会  
瀬口脳神経外科病院  
住所 ■ 長野県飯田市上郷黒田218番2  
発行日 ■ 2014年4月  
代表電話 ■ 0265-24-6655  
問い合わせ先 ■ 医療支援部 宮澤明啓

**編集後記** 「まどか」も6号目の発行となりました。これからも地域の皆様に役立てていただける情報を提供していきたいと思っております。ご意見、ご感想などございましたら何なりと職員までお申し付けください。